

## 17-9 カムイユカラ「イワンレクトウシペ（ノペ）」

### 質問と解説

語り手：鍋澤ねぷき  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：ええっと、sonkokor [言づてを持っていく] してきたのは、何ちゅうあれ……（声が重なる）

鍋澤：enunnoya [ヤマガラ] っていう cikappo [小鳥]。

萱野：ああ、そうかい。

フチ1：ほんとにあんな ponpon cikap [とても小さい鳥]

鍋澤：あるんだ、うん。pon poon cikap だ、sonko ye p [言づてを言うもの] だ。nep ka easurani pa p [何か危急を知らせるもの] だと。

フチ1：そうだ。

鍋澤：うん。

萱野：どんな鳥だべ？

フチ1：あれ、青い。

フチ2：カケスよりちっちゃいんだ。

鍋澤他：ちっちゃい、ちっちゃい……

フチ1：ちっちゃい、ちっちゃいスズメみたいなもんでな……

鍋澤：うん、そんだ、そんだ。

萱 野：ふうん。enum... enunnoya [ヤマガラ] ?

鍋 澤：うん。

萱 野：ふうん。

鍋 澤：何か知らせにくる cikappo [小鳥] だ話だ。うん。

萱 野：そして、なかでいた kamuy [神様] は、何 kamuy だべ？ cise kor kamuy [家の神様] は。家にいた……

鍋 澤：その、kira p [逃げた者] は、何なんだかなあ、あれは、聞かないものだから……

萱 野：うん、よく分からない？

鍋 澤：分からない。

萱 野：その神様の名前は分かりやまだ……

鍋 澤：うん、分からん。分かれば良かったって。hunta ne [何で]、あれだつて、nupur pe ne wa kusu sine kinit ne yaykar=an w\_a an=an [霊力があるものであるので一本のカヤの茎に変身している] っていうんだべさあ、きっと。

萱 野：うん。だ……。

鍋 澤：hemanta ne kusu [なぜ] 言わんで (?) ……

萱 野：まあ、アイヌふる……ふうのさるかに合戦みたいなもんだな、これな。

鍋澤他：フッフッ (笑)

萱 野：あたくしは一人の神様でありました。ま、今、何の神様だかよく分からないな。

鍋 澤：んー、んだ、んだ、んだ。

萱 野：家でおったら、そこへ enumnoya [ヤマガラ] という、その、これ、日本語何ちゅう鳥だべなあ？

鍋 澤：何ていう鳥だべ……

萱 野：その辺によく見えるか？ して。

鍋 澤：あの……

フチ 1：いるよ？ あの……

萱 野：ふうん。

フチ 2：ecিকেপ্পো [シジュウカラ] でもない。

フチ 1：こう……

フチ 2：ま、こうはあるんだわね……

フチ 1：こう……口のところ青いもんでなかったか？

萱 野：ふうん。

鍋 澤：matek(?) okay pe ne だか……

フチ 1：あの……

フチ 2：こう……。

フチ 1：茅わらにいるんだど。

萱 野：ああ、そうかい。ふうん……

鍋 澤：うん、うん。

フチ 1：あの、こう、草わらに。

萱 野：うん。enu... enumnoya [ヤマガラ] という小鳥が窓の上へ来て、「ちょっとちょっと、今か……、今もう少ししたら、あんだのところへ、六本の首のある化け物が来るぞ」と言ったんだな？ iwan rek... (声が重なる)

鍋 澤：そんだ、そんだ、そんだ。

萱 野：iwan rekut kor [六首を持つ] ……

鍋 澤：うんうん、iwan rekut kor [六首を持つ]。

萱 野：うん。「化け物が来るから」と言ったので、私はすぐにその、待ち伏せする用意をした。まず、火のなかへはクリをうずめ、それから、炉の、炉でない、この床の一番真ん中には ruwe kem okkayo [太い針男]、太い針をすえ、それから窓のときを……ここへはハチを置いた。それから、水……水がめのところへ amuspe [カニ]、えーカニですね。

鍋 澤：お……。

萱 野：置いた。それから、入り口のところへは iutani [きね]、きねですね。

鍋 澤：うん。

萱 野：それから、もっと外の入り口には nisu [うす] って、うすを。

鍋 澤：うす置いた。

萱 野：そうして待っておったら、その iwan rekut kor wenkamuy [六首の悪い神様] 来るのには、最初の、あれには、何っちゅったつけ？

鍋 澤：最初は、あの。

萱 野：うん。

鍋 澤：(節にのせて) sine rekuci nope [一つの首は] ……

萱 野：うん。

鍋 澤：ca... caranke [談判]。

萱 野：あ、caranke。

鍋 澤：うん。

萱 野：一つの、

鍋 澤：sine... sine rekuci は、

萱 野：caranke、それか (声が重なる)

鍋 澤：hahase ってせ、何ていうんだかよ？ それは、分からん。  
(以下、節に乗せて語る)

hahasere	ハアハアと言わせ
nope sine rekuci	一つの首は
nope ponpe ciste	赤ん坊を泣かせ
nope sine rekuci	一つの首は
nope ihawaskere	子守唄をさせ
nope sine rekuci	一つの首は
nope sakehawkire	酒宴の歌を歌わせ
nope sine rekuci	一つの首は
nope carankere	談判をさせ
nope	
これでいちち [5つ] したな？	

萱 野：うん。

鍋 澤：(以下、節に乗せて語る)

nope sine rekuci 一つの首は

nope pewtankere 危急の叫びをあげさせ  
nope... ep... haweas wa ora sine kinit ne yaykar=an w\_a nuynak=an  
w\_a an=an. oro ta ek sekor\_ ne. hunta... hunta kamuy ne hawe ne ya.  
〔その声がして、私は一本のカヤの茎に変身して隠れていた。そこに来た  
たと。何の神様っていう話だか〕 ……

萱 野：うん。

鍋 澤：nep〔何〕でも、cise kor kamuy hene ne hawe だか〔家の守り神様っ  
ていう話だか〕 ……

萱 野：ああ、なるほどね。

鍋 澤：mak ne hawe だか〔どういう話だか〕（笑）。

萱 野：そして、その来たの、六つの首の、ある化け物が来た。その来たのを聞  
けば、一つの首には caranke。

鍋 澤：うん。

萱 野：談判させて。

鍋 澤：うん。

萱 野：一つの首には、hahasere、これは息させているわけだな。一本の口は  
な……

鍋 澤：うん、んだ、んだ。きっと……

フチ 1：そうかしらん。

萱 野：それから、一つの首、口……首には……。

鍋 澤：ponpe ciste ってば……

萱 野：うん、赤ちゃんの泣き声をさせる。

鍋 澤：うん。

萱 野：それから、一つの、そ……あれには、iwa...

鍋 澤：ihaw... ihawaske ってばね [って言えばね]、やっぱり……

フチ 1：守り、子守り……

鍋 澤：守り子。

萱 野：ああ、なる、うん。iha... ihawaskere かい？

鍋 澤：うん。

萱 野：うん。

フチ 1：子守歌だ。

鍋 澤：フッフッフッ (笑)。

萱 野：うん。ihawaskere っちゅうわけだな？

鍋 澤：うんうんうん。

萱 野：そして、一つの首には、ま、子守歌、一つの首には sakehaw [酒宴の歌]。

鍋 澤：うん。

萱 野：sakehaw っちゅうのは、お酒を飲んで楽しくなった時の声をさせ、

鍋 澤：うんうんうん……。

萱 野：一つの首には pewtanke。

鍋 澤：うんうん。

萱 野：危急を知らず声をさせながら、やってきた

鍋 澤：うんうん（笑）

萱 野：そして、あたしの待ちぶ……待ち構えていたように来て、家のなかへ入って、「たった今いたのに、どこへ行ったんだろう」といいながら囲炉裏をおこしたら、そこでクリが待っていて、バチッとはねて、目えいっばいあく〔灰〕が入った。それから「これは熱い、熱い」。後ろへさがったら、**ruwe kem**〔太い針〕って針が、

鍋 澤：針。

萱 野：おしりに刺さった。それから窓へ逃げたら、ハチが待っていて頭を刺した。それから水のところへ行ったら、水のところでは **amuspe** といってカニが待っていて、カチッとはさんだ。外へ逃げようとしたら **iutani**、きねが待っていて、コチンとついた。外へ行ったら **nisu** が、うすが、その **sem**〔物置き〕の上において、落ちてきて、ピシャンとつぶれて死んでしまった、と

鍋澤他：フフフッ（笑）。

萱 野：一人の神様がいました、というのが、これの、あれだな？ **kamuyyukar**〔神謡〕だな。

鍋 澤：うん、うん。

フチ 1：い……犬ばり（？）ばば言ったんでしょ〔犬ばかりおばさん言ったんでしょ〕。

鍋 澤：フフフッ（笑）ほん……。

フチ 1：きのうよりいいわ

フチ 2：**taan rekut inumpe ne a(?)** って言ったの言って（？）。

萱 野：もう一回今のやつ、こう、言って。調子よく。

鍋 澤：ine ine? [どれ?]

萱 野：うん、今の、同じの。

鍋 澤：あの……。

萱 野：うん。今の **kamuyyukar** [神謡] さ。

フチ 1： **atpake wa ne** [最初からだ]

萱 野：うん、最初から。

鍋 澤：あの……うん、うん。